Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 25第19号

2025年（令和七年） 8月15日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電話 （03）3534-7411（代）
FAX （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（8月7日～13日）の国際石油市場は、米ロ首脳会議の15日開催決定に伴う緊張緩和、米中関税交渉の不透明感、先行き需給の緩和観測などから、軟化した。

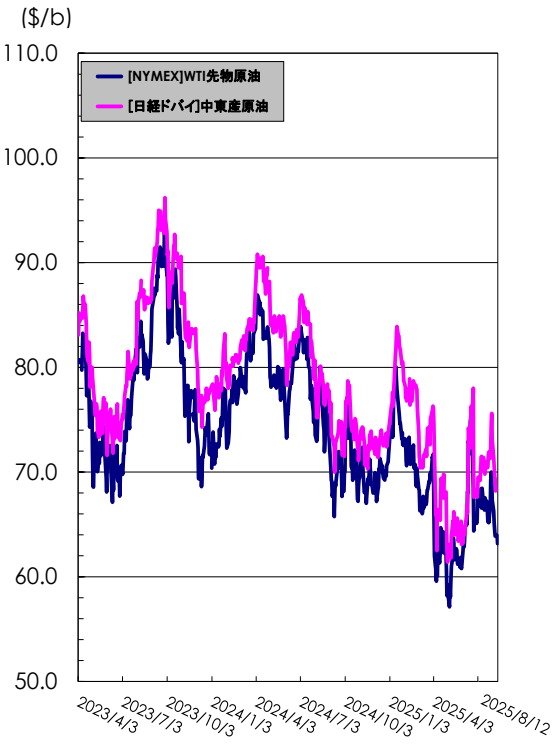
NYのWTI原油先物市場は、8月7日、6営業日続落の63.88ドルで始まり、8日は横ばい、週明け11日はわずかに反発したが、12日、13日と続落し、9月物終値62.65ドルで終わった。

また、中東産ドバイ原油/東京市場（9月渡し）も、前週（7月31日～8月6日）は69.60～75.60ドルの範囲で推移したが、当週は、8月7日69.30ドル、8日68.20ドル、12日68.90ドル、13日67.60ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は前週（7月31日～8月6日）146.98～150.79円の範囲で推移したが、当週は、8月7日147.67円、8日147.26円、12日148.46円、13日147.84円だった。

そのような中で、8月12日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.7円高、軽油も同0.6円高、灯油は同10円高（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は174.9円だった。8月14日～8月20日の燃料油補助金の支給額は、次週予想金額が175円未満となったため、「予防的な激変緩和措置」の発動がなく、定額分10円と、ガソリン・軽油の場合前週比2.2円減、灯油・重油の場合も5円と同1.1円減となった。

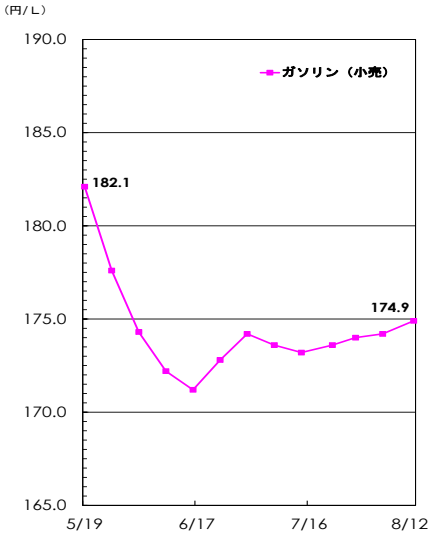
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	週報公表休み	－	－	－
	トッパー稼働率	（%）	〃	－	－	－
	原油在庫量	（千kl）	〃	－	－	－
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	8/12	68.90	▼ -2.50	▼ -11.2
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	8/11	63.96	▼ -2.33	▼ -16.1
	原油CIF単価	（$/bbl）	7月中旬	71.17	▲ 0.83	▼ -16.87
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	64,672	▲ 454	▼ -23,765
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	144.47	▲ 0.66	▲ 15.23
	外国為替TTSレート	（¥/$）	8/12	149.46	▼ -0.82	▼ -1.12



（単位：千kl、円/kl）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	在庫		週報公表休み	―	―	―
価格	先物[期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/5 ～ 8/11	79.5	▲ 1.5	▼ -1.5
		(TOCOM/中部)	8/8	79.0	▲ 3.0	➡ 0.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	8/12	174.9	▲ 0.7	▲ 0.3

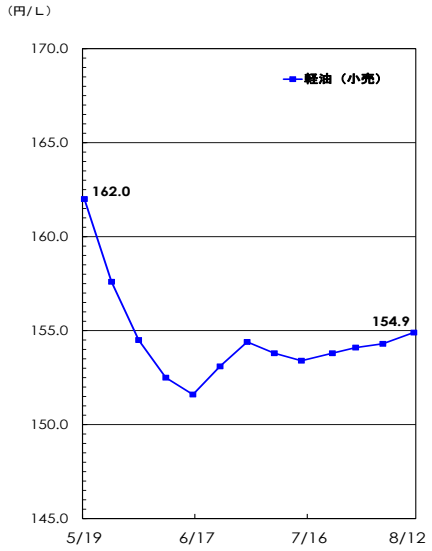
※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/kl）

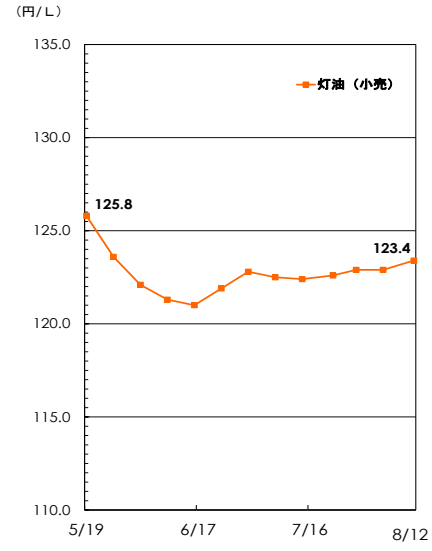
軽油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		週報公表休み	―	―	―
価格	先物[期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/5 ～ 8/11	83.7	▲ 0.3	▲ 3.3
		(TOCOM/中部)	8/8	―	―	―
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	8/12	154.9	▲ 0.6	▲ 0.6

※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/kl）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		週報公表休み	―	―	―
価格	先物[期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/5 ～ 8/11	81.0	➡ 0.0	▲ 1.0
		(TOCOM/中部)	8/8	82.0	➡ 0.0	▲ 3.0
	小売 [週動向]	(資エ庁公表)	8/12	123.4	▲ 0.5	▲ 6.2



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（7月31日～8月6日）のNYMEX・WTI先物市場は、64.35～69.26ドルの範囲で推移した。

当週8月7日は、ロシア政府高官が近日中の米露首脳会談開催で基本合意したと発言、ロシア原油を輸入する中国・インド等への追加の二次関税賦課を含む対ロ経済制裁強化の懸念が後退し、6営業日続落した。また、この日発表の米国新規失業保険申請件数は市場予想を上回り、雇用状況の後退感が浮上、さらに、為替市場では対ユーロでドル高が進行、原油先物の割高感も、値下がり要因となった。9月物終値は前日比0.47ドル安の63.88ドル。

週末8日は、米ロ首脳会議の来週開催観測が流れる中、中印等への二次関税賦課を含む対ロ経済制裁強化の懸念も続く状況で、様子見ムードは強く、横ばいとなった。ただ、石油の需給緩和懸念も大きく、前日までの6日続落の安値拾いの買いとの相殺も見られた模様。9月物終値は前日比横ばいの63.88ドル。

週明け11日は、8日の米ロ首脳会議の15日アラスカ開催が発表されたことで、ウクライナ停戦を巡る期待感、懸念が交錯し、様子見模様も強く、わずかに上伸した、9月物終値は前週末比0.08ドル高の63.96ドル。

12日は、ドライブシーズン終了を前に、米国内ガソリン需要の減少懸念、この日発表のIEA月報の弱気な2025年需要予想を背景に、反落した。対露経済制裁強化については、15日の米ロ首脳会談の結果待ち、米中関税交渉については、追加関税の一部の90日間延期は発表されたものの、不透明感は続いている。9月物終値は0.79ドル安の63.17ドル。

13日は、米国石油在庫週報が発表、ガソリンは前週比取り崩しだったが、原油は予想外の積み増し、また、この日発表の国際エネルギー機関（IEA）月報は、世界石油需給の緩和拡大を予想、先行き供給過剰懸念から、続落した。9月物終値は0.52ドル安の62.65ドル。

2　海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）の、8月13日発表の8日現在の米国在庫週報によれば、米国の原油在庫は前週比300万バレル増と市場予想（同30万バレル減）に反する積み増しだったが、ガソリン在庫は80万バレル減と市場予想（同30万バレル減）を上回るに取り崩しだった。

EIAによると、8月11日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.2セント減の1ガロン3.118ドル（122.0円/ﾘｯﾄﾙ）と3週ぶりの値下がりで、ディーゼル小売価格も、前週比4.6セント値下りの1ガロン3.754ドル（148.0円/ﾘｯﾄﾙ）と3週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、8月8日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基増の411基となった。

3　国内/原油処理量

（今週の石連週報は、お盆休暇につき発表なし）

4　国内/製品在庫量

（今週の石連週報は、お盆休暇につき発表なし）

5　国内/元売会社製品卸価格

8月5日～11日のドル建て中東原油価格は前週比値下がりし、為替も円高で、元売会社の卸建値は値下げしたものと見られる。ただ、8/14からの補助金は、「予防的な激変緩和措置」が解除され、定額補助金10円だけで、前週比2.2円減（揮発油・軽油の場合。灯油・重油は5.0円）となったが、補助金込みの実質卸価格は、小幅な値下がりとなる模様。

6　国内/製品小売価格

8月12日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.7円高の174.9円、軽油も同0.6円高の154.9円、灯油は18ﾘｯﾄﾙベースで同10円高の2,222円（1ﾘｯﾄﾙベースでは0.5円高の123.4円）。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油は2週ぶりの値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが42都道府県、横ばいは2県、値下がりは3県だった。全国最安値は愛知県の168.7円、その次は宮城県の170.0円であった。他方、最高値は鹿児島県の184.2円。最も値上がりしたのは山形県（前週比2.0円高）、最も値下がりしたのは徳島県の（同0.8円安）だった。

次回調査時（8/18）のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

（単位：円/ﾘｯﾄﾙ）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(8/12)	前週　(8/4)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	174.9	174.2	▲ 0.7	2023/9/4 2025/4/14	186.5
	灯油	123.4	122.9	▲ 0.5	08/8/11	132.1
	軽油	154.9	154.3	▲ 0.6	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2025第20号）の公表は、8/22（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。
為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。